

TSC21推進協議会入会のご案内

TSC21は、1991年に東京電力と日建設計が「負荷予測に基づく蓄熱制御」のために開発に着手したプログラムをベースとしています。10年の歳月をかけて実証試験、実用化検証を行い、1999年からは有志企業によるコンソーシアムを開き、蓄熱以外の汎用化とオープン指向の通信機能を加え、トータル制御&エネルギーマネジメントツールとして完成したものです。

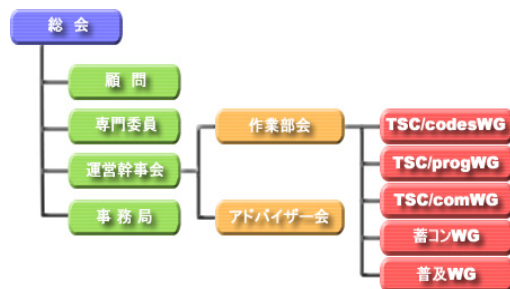
このTSC21の成果を公開しますので、一般の方々もご利用いただけます。なお、ソフトウェアは日進月歩の情報技術を常にキャッチアップしていかなくてはなりません。そうしないと直ぐに陳腐化してしまいます。TSC21も例外ではありません。また、ご利用いただくときと新たな要望が出てくることでしょう。皆様のご意見ご要望を集め、より良いソフトにしてい、これがソフトウェアを育てていく上での最も望ましい形です。

このように皆様の力を結集するためには“場”が必要ですが、これがTSC21推進協議会です。TSC21推進協議会は特定の団体・個人のものではありません。趣旨にご賛同していただける方なら誰でも参画できます。TSC21推進協議会が直接的なソフトウェア開発を行うものではありませんが、皆様の共通の“場”として、「技術会員」には技術的支援を、「アドバイザー会員」には普及促進の支援を、それぞれの立場で可能なご協力・ご支援いただくことが期待されています。

様々な可能性を秘めたTSC21です。ご参加いただき、皆様のお知恵とお力で盛り立てていただきたいと思います。

会長 株式会社森村設計 取締役副社長 村田 博道
副会長 東洋熱工業株式会社 上級研究員 村澤 達

組織図



会員種別

会員種別	対象	年会費
アドバイザー会員	主としてビルオーナーなどが対象で、普及促進支援をお願いしています。	—
学会会員	主として教育・研究機関従事者が対象で、技術的側面からのサポートをお願いしています。	—
技術会員(法人)	企業・団体を対象とし、TSC21の技術を利用・販売することができます。	10万円
技術会員(個人)	TSC21の技術に興味のある個人を対象とします。総会の議決権はありません。	1万円

TSC21推進協議会は、TSC21の技術の仕様確定と普及促進を目的として活動している任意団体です。

TSC21推進協議会事務局
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-47-8-208
株式会社システック環境研究所内
Tel:03-5305-3701 Fax:03-5305-3700

Tool of Solution & Communication for BEMS
TSC21

お問い合わせ



www.serl.co.jp/tsc21



tsc21@serl.co.jp

Tool of Solution & Communication for BEMS

TSC21

TSC21 推進協議会

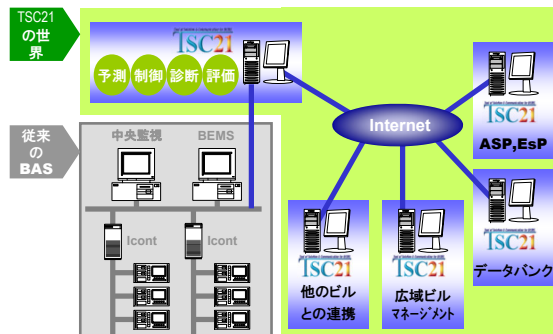


TSC21とは？

TSC21は、これまでのBEMSを革新的に進歩させる、情報のネットワーク化に対応した環境&エネルギー管理のための「プラットフォーム」であり、BEMSを構築するための「フレームワーク」です。

TSC21は、遠隔群管理を想定したエネルギー管理を簡便に行うための“ソフトウェア”、“ライブラリ群”、および“規約”の3要素から構成されます。

TSC21は、Tool of Solution and Communication for BEMS 21st Century の略称です。



TSC21のコア技術



通信プロトコル 通信ソフトウェア

BASとデータの授受を行うための通信の仕様とともに、ソフトウェアを提供します。



ロジック構築ツール

BASのデータをマネジメントレベルで活用するためのデータ処理およびロジック構築機能です。



データ表記・命名規定

管理ポイントの「名前の付け方」を規定することで、管理・運用を効率化します。



蓄熱制御仕様

蓄熱制御機器の仕様を定めます。“機能仕様”だけでなく具体的な“実装手法”も含まれます。

TSC21はBASが抱える問題を解消します

通信の問題

- 既存の中央監視盤のデータが見えない
- 遠隔地からデータの管理ができない
- 仕様だけではソフトウェアの実装が大変

TSC/com



- インターネットを介してデータのやり取りが可能
- ソフトウェアとして公開されるので実装が簡単

制御ロジックの問題

- 制御ロジックやパラメータがどうなっているかわからない
- ちょっとした変更にお金や時間がかかる
- その場で変更できない

TSC/prog



- パラメータはロジックとともにテキストファイルに記述
- 自分で変更できるので余分なコストがかからない
- 現場のノウハウを即座に取り入れることができる

データ命名方法の問題

- ほしいデータが見つからない
- 同じポイントなのに建物毎に名前がバラバラで管理が大変

TSC/codes



- 全ての建物で同じデータは全て同じ名前
- 階層構造によりどの機器のどのデータが特定できる
- 建物ごとの変換テーブルが不要になり管理・運用を効率化できる

蓄熱システム固有の問題

- フィールド機器の単純な制御機能がうまく働かず、蓄熱空調システムが活用されない

TSC/ctrl



- これまでに蓄積されたノウハウを「制御仕様」として公開
- TSC/progと連携して高度で安定した蓄熱制御を実現

TSC21が開くソリューションの世界

